

F-4

聖德皇太子撰

五憲法和譯

東京

獨尊教會藏版



目録

通蒙憲法 十七條

政家憲法 全

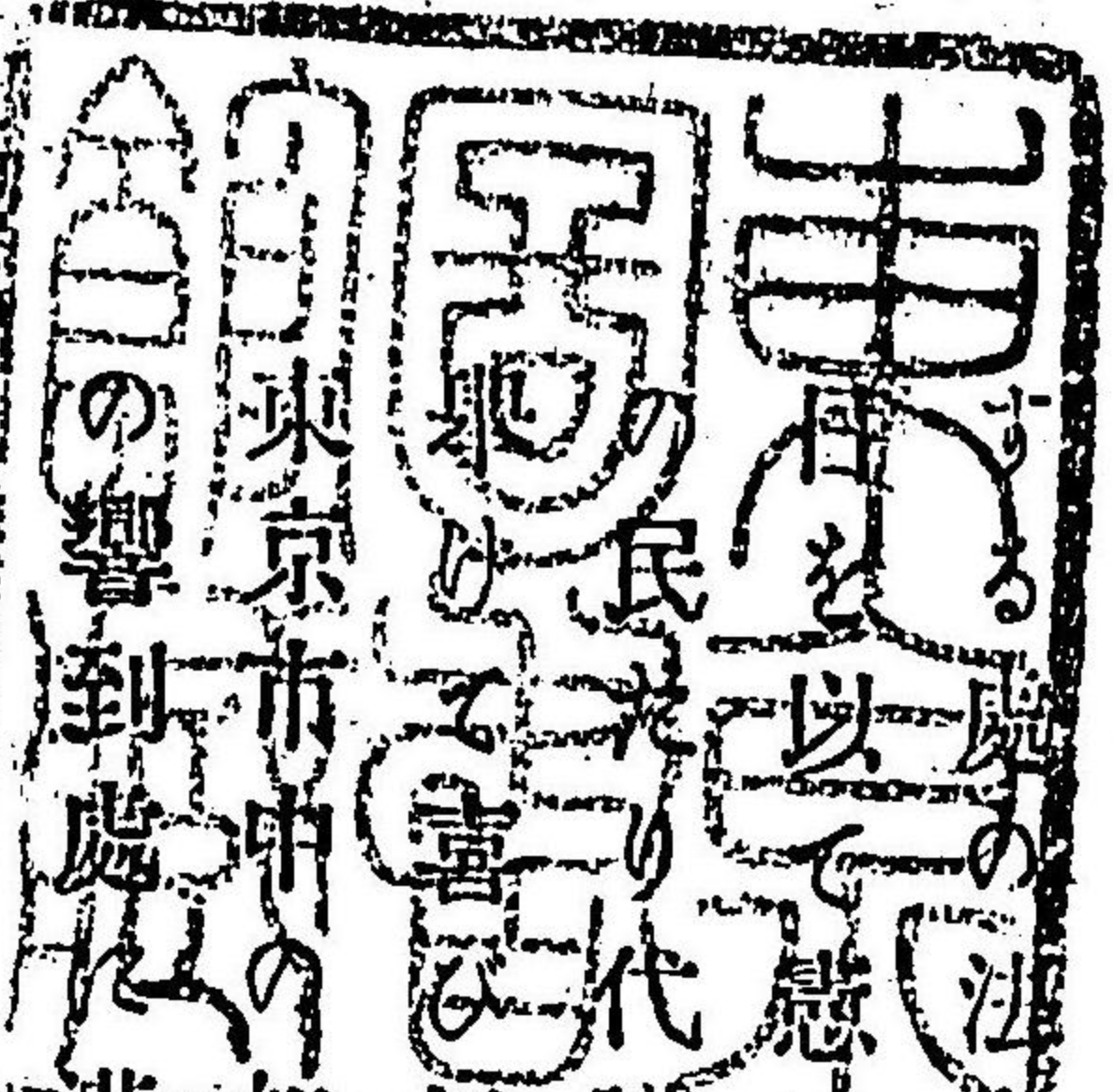
儒士憲法 全

神職憲法 全

釋氏憲法 全

五憲法利譯小言

人間社會の發達して政治的團體と形づくりに至れば憲法の必ず無る可からざるを感ざるなり如何に



憲法大典の發布あり國民異口同音に憲法國の民の代議制度の下に生息する者なりと日本全土の響に満ちたり茲に我が帝國の光榮を中外に宣揚し刑聖無窮の憲法を仰ぐことは素より万民の聖壽萬歲狂喜歡呼するも最の事なり然れとも余輩は大に



目録

通蒙憲法 十七條

政家憲法 全

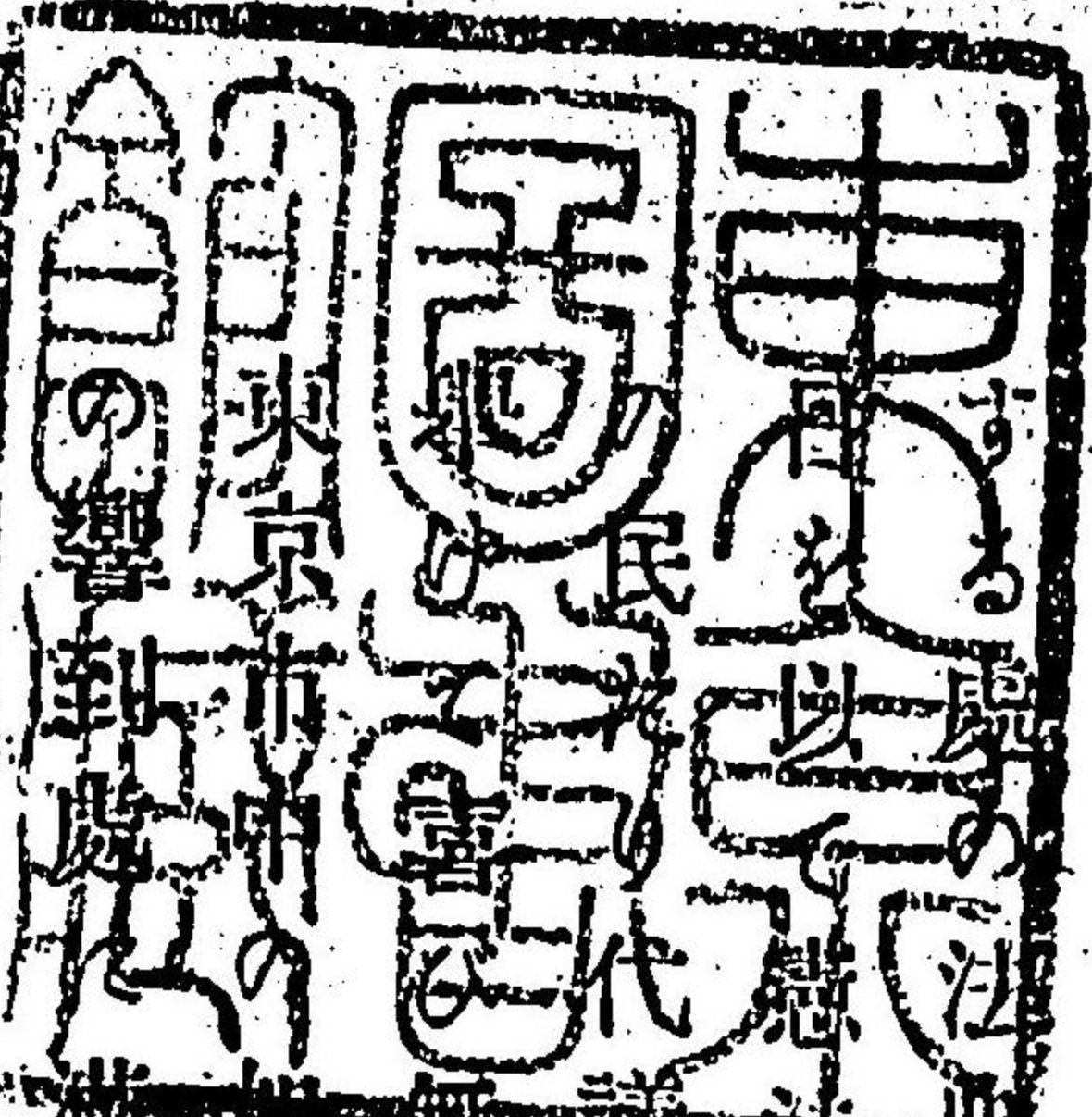
儒士憲法 全

神職憲法 全

釋氏憲法 全

五憲法和譯小言

人間社會の發達して政治的團體を形づくるに  
憲法の必ず無る可からざるを感するなり如何に  
れば憲法なるものゝ國家人民と政府との關係を規定



する處の法典なり故に我國去る明治廿二年二月十一  
日民衆の代議制度の下に生息する者なりと日本全土  
の民衆は憲法大典の發布あり國民異口同音に憲法國  
の響に舞ふこと實に千歳一時の賀世なりと特に  
東京市中の如きは聖壽万歳の聲十方に漏れ狂喜歡呼  
の響に満ちたり茲に我が帝國の光榮を中外に宣  
揚し神聖無窮の憲法を仰ぐことは素より万民の聖壽  
万歳狂喜歡呼するも最の事なり然れども余輩は大に



怪しむ現に聞さし泰西緑眼人種は日本は憲法の存せざるの蠻國なりと此の無識なる西人の冷評を是認し日本を以て初めて憲法を制定し只管西洋に倣ひしものと思ひ猥りに自國を卑しと彼れ却て我は倣ひしことを知らざる徒輩あり嗚呼見よ見よ我日本帝國の政治組織を形づくりし以來已業に憲法の存在しつゝあり畏くも千數百年の昔日聖德皇太子奉勅制定し給ふ處の至善至美の憲法是れなり然れども昔世と今時とは自ら時勢の異なるあり素より一概に云ふべからず其憲法の如き完全不完全を論すれば或は今日のコンスナチエーションと稱するものと聊か逕庭あるも之を日本の古代憲法と云ふに於て毫も憚かる處なし斯る

特49  
712

善美なる憲法あるを知らず只泰西に倣ふと云ふは尤も嘆はしき事にあらずや

蓋し我國中古に至り武門の徒交々輩出し其の政權を恣に執行するに障害ありと看過したるを以て此美法遂に埋没せり故に我國之を知るもの甚た稀なり然るに畏くも 天皇陛下親く憲法制定の勞を取らせ我々臣民に宣布し給ふの佳世に當り尙埋没して顯はれざるの眞に遺憾に堪へざるなり余は太子の洪恩に浴すること久しければ此美法の埋没を見るに忍ひん故に五憲法を和譯して以て全國同志者に配布せんと欲す諸君輕々に看却し給はざらんことを祈る

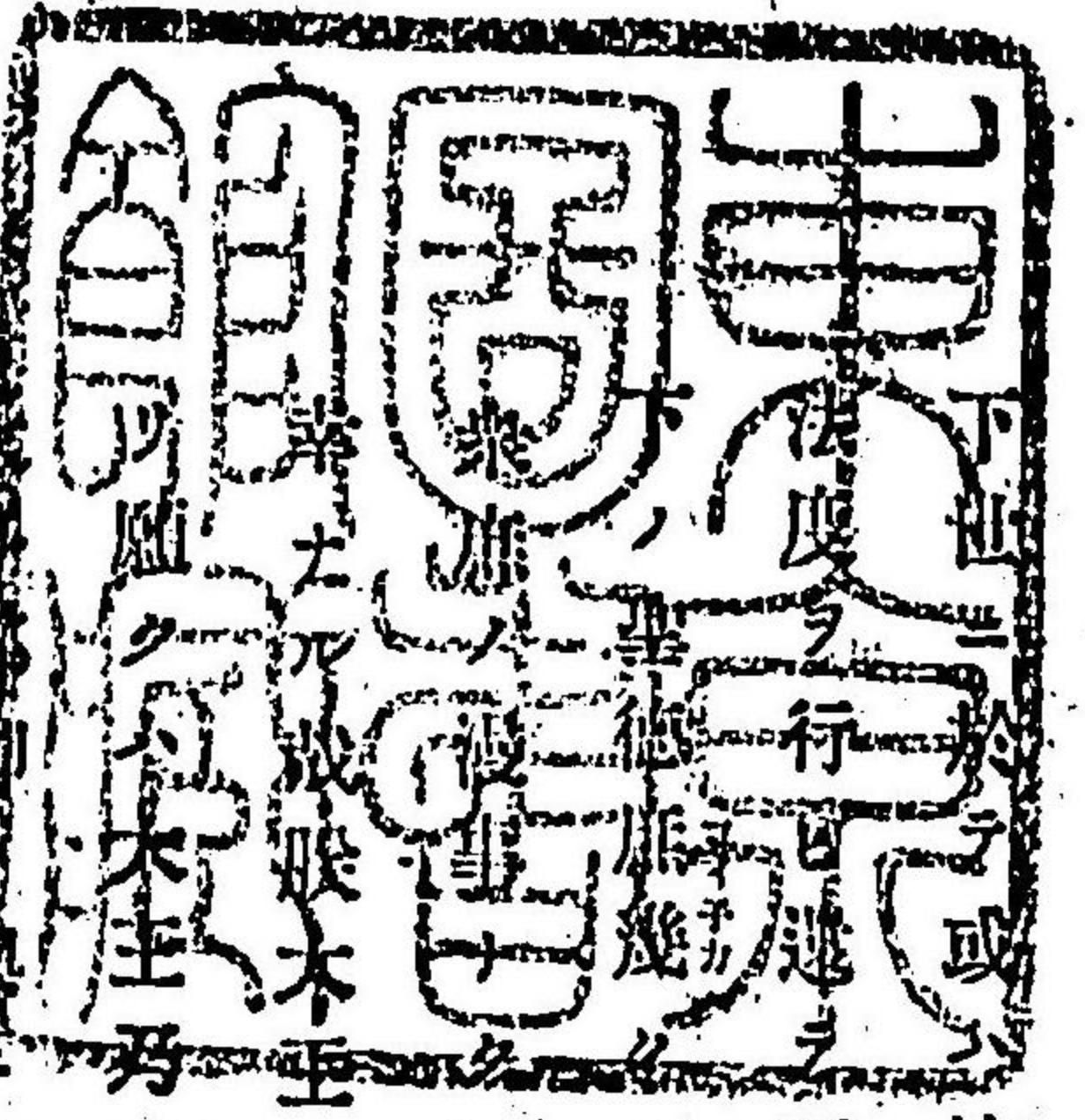
明治二十四年二月日

譯者 識



天皇十有二年夏四月皇太子奏シテ曰ク上代君臣正誠ニシテ漫慢ナク  
 庶兆淳敬ニシテ姦邪ナシ故ニ朝廷目ヲ政立テ未タ會テ禁制軌則ヲ立  
 ス近世ハ寡卿万黎天有ノ正直ヲ失シ數々人私ノ妄邪ヲ作ス然ハ即チ  
 法度行ハレヌ彌猥僻ヲ作ス迷テ正度ヲ失シ或ハ妄ニ  
 天有ノ正度ヲ亂ル而テ當ニ亂ヲ亂ナキニ發スヘシ陸  
 ハ其宜極ヲ議シテ而テ佳美ノ慶憲ヲ立テ後代ヲシテ  
 王者ノ漫制ナカラシメ給ヘト時ニ 天皇詔テ曰ク  
 勸メテ得タリ時ナル哉勸メテ法度ヲ著スニ任ヘタ  
 子憲法ヲ制シテ弘ク今來世ニ蒙ラシメヨ茲ニ於テ皇  
 太子稱卿 與ニ議シ雖メテ憲法十七條ヲ製シ之ヲ獻ス 天皇大ニ悅  
 シ重詔シテ曰ク 大王憲法善ヲ盡セリ然リト雖凡法ハ精密ナルニ若  
 カス願ヲク諸家ノ爲メニ別チ斷リ以テ相當ルノ制軌ヲ布ケヨト時ニ

憲法本紀眞譯



天皇十有二年夏四月皇太子奏シテ曰ク上代君臣正誠ニシテ漫慢ナク  
 庶兆淳敬ニシテ姦邪ナシ故ニ朝廷目ヲ政立テ未タ會テ禁制軌則ヲ立  
 ス近世ハ寡卿万黎天有ノ正直ヲ失シ數々人私ノ妄邪ヲ作ス然ハ即チ  
 法度行ハレヌ彌猥僻ヲ作ス迷テ正度ヲ失シ或ハ妄ニ  
 天有ノ正度ヲ亂ル而テ當ニ亂ヲ亂ナキニ發スヘシ陸  
 ハ其宜極ヲ議シテ而テ佳美ノ慶憲ヲ立テ後代ヲシテ  
 王者ノ漫制ナカラシメ給ヘト時ニ 天皇詔テ曰ク  
 勸メテ得タリ時ナル哉勸メテ法度ヲ著スニ任ヘタ  
 子憲法ヲ制シテ弘ク今來世ニ蒙ラシメヨ茲ニ於テ皇  
 太子稱卿 與ニ議シ雖メテ憲法十七條ヲ製シ之ヲ獻ス 天皇大ニ悅  
 シ重詔シテ曰ク 大王憲法善ヲ盡セリ然リト雖凡法ハ精密ナルニ若  
 カス願ヲク諸家ノ爲メニ別チ斷リ以テ相當ルノ制軌ヲ布ケヨト時ニ



皇太子再ヒ詔ヲ奉テ尋テ四家ノ憲法ヲ製シテ永世ノ警メトナス所謂  
 政家憲法、儒士憲法、神職憲法、釋氏憲法、是ナリ已ニ之ヲ製シテ郡卿ニ命  
 シテ曰ク正政ノ本ハ學問ニ在リ學問ノ本ハ是レ也。タ儒ト釋ト神トナ  
 リ是レ此ノ三法天極ノ自有ニシテ人造ノ私則ニアラス皇政ヲ道ヒ國  
 家ヲ治メ人情ヲ正シ黎民ヲ善クスルノ寶物ナリ然リト雖モ其一ニ通  
 スル者ハ知ラサルヲ以ノ故ニ其他ヲ非リ有コアラサル者ハ其レ妄物  
 ナリト謂テ互ニ誹謗シ交々嫉妬シ學還テ邪トナリ法還テ妄トナル是  
 レ聖ヲ破リ政ヲ破ルノ大罪ナリ學フコトナクシテ遊蕩センニハ如カ  
 ス遊蕩ハ尤チナシ學ンテ邪ヲ發ス理ヲ破テ暗者トナリ心ヲ破テ亂者  
 トナリ聖ヲ破テ邪者トナリ政ヲ破テ叛者トナルハ悲マサルヘカラス  
 是ノ如キ愚夫ハ凡情頑己ヲ以テ己カ甘ニスルヲ是トシ甘ンセサルヲ  
 非トス其偏ヨル所ヲ立テ其嫌ヲ所ノ者ヲ廢ス道ノ己ガ僻ヲ以テ頻リ  
 テ推シ弘メテ徒カラヲシテ悉ク情ヲ同スルコトヲナサシメント欲ス

是レ諸レ未タ曾テ他ノ經中ニ法理アルヲ願ミサルニ依リ面ヲ堅固ニ  
 シテ能ク其機ニ隨ヘ或ハ直リ或ハ回リ或ハ見レ或ハ匿シテ以テ人情  
 ヲ直ラシ民欲ヲ伏シテ悉ク政ノ大益ニ入ルニ在リ彼レハ夫レ博識ナ  
 リト雖モ只書籍ノ空言ヲ知テ以テ未タ嘗テ政ニ豫ツカラス熟々惟ル  
 ニ是ノ如キノ法ハ能ク是ノ如クノ機ヲ化シ是ノ如キノ法ハ是ノ如キ  
 ノ機ニ合ハス是ノ如キノ機ハ是ノ如キ法ニアラサレハ伏セス是ノ如  
 キノ機ハ是ノ如キノ法ニ依テ邪ヲ増シ及ヒ厥ノ法ノ相ハ其國ニ於キ  
 世時ニ於テ相應スルコトアリ應モサルコトアリ而テ益アルヘカラサ  
 ル相ハ還テ之ヲ施ストキハ則チ大益ヲナス太々益アルヘキ理ニシテ  
 之ヲ施シト雖モ益ナリ微極細限地ニ由ルカ所爲ナルコトヲ知ルカ故  
 ニ其筆恣ニ記シ其言恣ニ説ク豈ニ唯今時ノ凡學ノミ然リトセンヤ上  
 代。上智アリト雖モ未タ自ラ政ヲ理メ其微ヲ試ミサル人ニ於テハ復タ  
 只理ノ宜ク事ノ然ルニ任テ言ヲ爲スコトアルカ故ニ其教ノ言ニ於テ



成ルヲナキノ空言アリ政ヲ道ヲモノハ試テ其間ノ施爲ヲ知ラサルハ  
カラス又其間ニ空言ニ似テ實言トナルアリ實言ニ似テ空言トナルア  
リ要ス之ヲ知テ當ニ其證ト其蹟ヲ尋テ之ヲ致スヘシ必迷フ所ナカラ  
ン然ラハ則チ政ナルモノハ古典ヲ用ルコト一ノ的アリ天有ノ理ヲ以テ  
天命ノ善ニ當ツヘシ之ヲ效ルモノハ皆是レ政ヲ興ルノ法ナリ皆之ヲ  
取レ其效ノ相ハ高キト下キト直キニ回ルトナリ是レ其國其時ノ人機  
ニ依ルモノナリ何ソ輒ク之ヲ是非センヤ又其的ニ外ルコトアルモノ  
ハ巧ヲナスト雖モ益スル所ナクレハ皆之ヲ捨テヨ假令其ノ中ルモノ  
ト雖モ其中ルニ害アルモノハ並ニ之ヲ弄ヨ神道ハ是レ我國ノ本教何  
レノ道カ之ヲ非ラン天竺ハ輪王佛典震旦ハ黃老孔孟皆的ニ中ルノ大  
法ナリ中ニ齊元ニ障リアルノ句者ハ其一ニ極テ他ノ千万ヲ用ヘヨ  
ト爾宜ク時ニ 天皇詔テ曰ク假使時遷リ機改ル下世ト雖モ道文ニ背  
ク異法ヲ庸ルコト勿レ代々ノ行此條章ニ因リ改ルコトナキトキハ則

國家豐泰社稷永久ナラン或ハ高慢ヲ以テ新ニ異則ヲ立テ以テ政ヲナ  
ストキハ則チ其世穩饒ナラス社稷必永カラスト  
五月初メテ群臣ニ詔テ憲法十七條ヲ行ハセ給フ通禁ノ憲法ナリ  
六月天皇詔テ政家憲法ヲ行ハセ給ヘリ  
十月詔テ儒ト釋ト及神職ノ憲法ヲ行ハセ給ヘリ



聖德太子撰 五憲法和譯

大瀧宗淵和譯

通蒙憲法

第一條 和ヲ以テ貴トシ忤<sup>カガ</sup>フコトナキヲ宗トス人皆黨アリ亦違スルモノ少シ是ヲ以テ或ハ君父ニ順ナラス乍チ隣里ニ違フ然ルニ上和ヲキ下睦シク事ヲ論スルニ諧フトキハ則チ事理自ラ通シテ何事カ成ラサラン

第二條 詔ヲ承テハ必謹メ君ハ天ニ則リ臣ハ地ニ則ル天覆ヒ地載テ四時順行シ萬氣通スルコトヲ得ルナリ地天ヲ覆ント欲スルトキハ則チ壞ルハコトヲ致スノミ是ヲ以テ君言臣承リ上行ヘハ下效フ詔ヲ承ケテハ必慎シメ謹マサレハ自ラ敗ル

第三條 群卿百僚ハ禮ヲ以テ本トナス其レ民ヲ治ムルノ本ハ要<sup>カキ</sup>ラス



禮ニアリ上ミ禮ニアラサレハ下モ齊シカラス下モ禮ナケレハ然モ必  
 罪アリ是ヲ以テ君臣禮アレハ位次乱レス百姓禮アレハ國家自ラ治ル  
 第四條 發ヲ絶チ懲ヲ棄テ明ニ訴訟ヲ辨ヘヨ其百姓ノ訟ヘハ一日千  
 事ナラン一日尙ホ爾カナリ況ンヤ歳ヲ累ヌルヲヤ頃口訟ヲ治ルモノ  
 ハ利ヲ得テ常トナス賄ヲ見テハ獻ヲ聽ルス便チ財アルノ訟ヘハ石ヲ  
 水ニ投スルカ如シ乏シキモノ、訟ヘハ水ヲ石ニ投スルニ似タリ是ヲ  
 以テ貧民ハ則チ由ル所ヲ知ラス臣ノ道ハ亦焉ニ於テ闕クルナリ  
 第五條 惡ヲ懲ラシ善ヲ勸ムルハ古ノ良典ナリ是ヲ以テ人ノ善ヲ匿  
 スコトナカレ惡ヲ見テハ必匡セヨ其レ諂詐ノモノハ則チ國家ヲ覆ヘ  
 スノ利益タリ人民ヲ絶ツノ鋒劔タリ亦佞媚ノモノハ上ニ對シテハ則  
 チ好テ下ノ過ヲ説キ下ニ逢ヘハ則チ上ノ失ヲ誹謗ス其レ斯ノ如キノ  
 人ハ皆君ニ忠ナク君ハ民ニ仁ナシ是レ大乱ノ本ナリ  
 第六條 人各任掌スルアリ宜ク濫レサルヘシ其レ賢哲ヲ官ニ任スル

トキハ則チ頌音起ル姦者ヲ官ニ在リトキハ則チ禍乱繁シ世ニ生レナ  
 カラニシテ知ルモノ少シ克ク念テ聖トナル事ニ大小ナク人ヲ得レハ  
 必治マル時ニ急緩ナク賢ニ逢ヘハ自ラ寛カナリ此ニ因テ國家永久ニ  
 シテ人ノ爲メニ官ヲ求メサルナリ  
 第七條 群卿百僚ハ早ク朝シ晏ク退テ王事盛コトナシ終日ニ尽キ難  
 シ是ヲ以テ遲ク朝スレハ急ニ逮ハス早ク退ケハ必事尽キス  
 第八條 信ハ是レ義ノ本ナリ事毎ニ信アレ其ノ善惡成敗ハ要ス信ニ  
 アリ群臣共ニ信アレハ何事カ成ラサラン群臣信ナケレハ万事悉ク敗  
 ル  
 第九條 忿ヲ絶チ瞋ヲ棄テ、人ノ違ヘシヲ怒ラサレ人皆ナ心アリ心  
 各執ルアリ彼レ是ナレハ則チ我トシ我レ是ナレハ則チ彼レ非トス我  
 レ必ス聖ニアラス彼レ必ス愚ニアラス共ニ是レ凡夫ノミ是非ノ理ハ  
 誰カ能ク定ムヘキヤ相共ニ賢愚ナルコト環ノ端ナキカ如シ是ヲ以テ



彼ノ人瞋ルト雖モ還テ我カ失ヲ恐レヨ我レ獨リ得タルコトアリト雖モ衆ニ從テ同ク舉ケヨ

第十條 明コ功過ヲ察シテ賞罰必ズ當テヨ日者ハ賞ハ功ニアラヌ罰ハ罪ニアラス事ヲ執ルノ群卿仰テ天ヲ察シ俯シテ地ヲ觀テ宜シク賞罰ヲ明コスヘシ

第十一條 國司國造ハ百姓ヲ歛ムル勿レ國ニ二君ナク民ニ兩主ナシ率土ノ兆民ハ王ヲ以テ主トシ任スル所ノ官司ハ皆是レ王臣何ソ敢テ公ケノ百姓ヲ賦歛セン

第十二條 諸同任官ノモノハ同ノ職掌ヲ通知セヨ或ハ病ヨシ或ハ使ヘシ事ニ闕クルコトアラハ然モ知ルコトヲ得ルノ日ハ相和シテ而テ會テ識ルカ如クセヨ其與カリ聞クニアラサルヲ以テ公務ヲ妨クルコト勿レ

第十三條 群臣百僚ハ嫉妬アルコトナカレ我レ既ニ人ヲ嫉メハ人亦

我ヲ妬ム嫉妬ノ患ハ其極ヲ知ラス智己ニ勝ルトキハ則チ悦ハス德己レニ優ルトキハ則チ嫉妬スル所以ナリ是ヲ以テ良哲ヲ出スコトナシ五百歳ノ后乃令賢ニ遇フトモ千載以テ一聖ヲ得ルコト難シ其賢聖ヲ以テ得サレハ何ヲ以テカ國ヲ治メンヤ

第十四條 一私ニ背キ公ニ向フ是ノ臣ノ道ナリ凡ソ人私アレハ必ス恨アリ恨アレハ非ヲ作シ固ヲ失シ固ニアレハ則チ私ヲ以テ公ヲ妨ク恨ミ起ルトキハ則チ制ニ違ヒ法ヲ害ス之ニ由テ私ヲ推スモノハ君ヲ君トシ臣ヲ臣トシ故ニ古典ニ云ク夫子ノ道ハ忠恕ナルノミト其レ亦是ノ情ナル歟

第十五條 民ヲ使フニ時ヲ以テスルハ古ノ良典ナリ故ニ冬月ニハ間アリ以テ民ヲ使フヘシ春ヨリ秋ニ至ルマテ農桑ノ節ハ民ヲ使フヘカラス其ニ農ニアラサレハ何ヲカ食ヒ桑ヲサレハ何ヲカ服シ

第十六條 大事ハ之ヲ獨リ斷ス必衆ト與ニ宜シク論スヘシ小事ハ是



レ輕シ必衆トスルニ足ラス唯大事ヲ論スルニ逮ンテ或ハ痴ニシテ失  
 アリ故ニ衆ト共ニ相辯辭スルトキハ則チ理ヲ得ルナリ  
 第十七條 篤ク三法ヲ敬ヘヨ三法トハ儒ト佛ト神トナリ則チ四姓ノ  
 總歸ニシテ萬國ノ大宗ナリ何レノ世何レノ人カ是ノ若キ法ヲ貴ハサ  
 ヲンヤ人ハ尤惡ナルモノ鮮シ能ク教ユレハ之ニ從フ三法歸セスンハ  
 何ヲ以テカ枉レルヲ直クセン

政家憲法

第一條 政ヲナスノ道ハ獨リ天ノ理ニ止マレ志ヲ孤ニシテ好惡ヲ  
 絶チ我ヲ孤ニシテ黨離ヲ離レヨ好黨ノ非ハ耳之ヲ理ニ化シ惡離ノ理  
 ハ口之ヲ非ニ化ス故ニ好惡ヲ絶ツトキハ物融ヲ致シ黨離ヲ離レテ政  
 和ニ歸ス物政和融スルトキハ兆民理マル兆民理マルトキハ天下平カ  
 ナリ

第二條 辰宿星ハ天ノ君ナリ公位公度ハ天ノ仁轉クル幹支禽ハ地ノ

臣ナリ忠列忠行 地ノ義定マル是レ人君人臣ノ理ナリ  
 故ニ王者ハ公政仁化シ臣連ハ忠事義奉スヘシ是レ天ノ道ナリ故ニ下  
 ハ事ヘテ命ヲ守ルナリ私ニシテ過ツトキハ則チ定テ刑セラル上ノ政  
 ハ天ニ宛ツ過チアルトキハ匹夫ニモ負ケリ故ニ過ヲナスヨトヲ改メ  
 ヲ改メサレハ逸政トナリ僑法トナルナリ  
 第三條 天ハ尊シト雖屈旋ル地ヲ包テ謙ヲナス若シ高キニ亢フリ上  
 リニ昇ルトキハ則チ度ニアラス地ハ元卑キクシテ定ル天ヲ仰テ節ヲ  
 ナス然ルニ定リニ反キ下ニ反クトキハ則チ方ヲ失シ人倫ハ中ニ在リ  
 天地ニ應シテ法トス故ニ王者ハ節文ニシテ政ヲ底シ臣庶ハ敬格シテ  
 命ニ降レ

第四條 人情ハ先聞ニ徧ヨル故ニ其片ヲ先ニセサレ上ト下トノ訴ヘ  
 ハ其罪大抵上ニアリ下ヲ囚ニスルトキハ則チ上僑テ罪絶ヘス亂ハ茲  
 ヨリ發ル縁ニ便スル訴ハ必ス非アリ政者ハ頼ニ傾クトキハ則チ正政



ヲ失シ貧富ノ訴ヘハ其誠ハ諸貧ニアリ規サルトキハ悲嘆止マヌ一ヒ  
非政ヲ發コセハ天下皆晦ム何ヲ以テ萬機ヲ理メン

第五條 政ヲ爲ムルコハ寛大ヲ善シトス佳美ノ法度モ尙ホ之レ無キ  
ニ如カス况ンヤ苛<sup>カク</sup>苛<sup>カク</sup>ノ法度ニ於テヲヤ愚蒙ノ主宰泰平ヲナサント欲

シテ蒼思ニ任セテ恣ニ數條ヲ設ク民ハ其法ノ迫ルニ勞ル事ハ其制<sup>セ</sup>  
ヨリ出テ、遠ニ累積シテ風塵ヲ起コス唯箇ノ仁ト恕ト泰平ヲ致ス

第六條 法度ヲ立ツルノ道ハ先ツ上ノ罪ヲ斷ルヘシ上ニ仁ヲ盜ムト  
キハ則チ下ニ財ヲ盜ム上ニ公ケテ枉ケルトキハ則チ下ニ訴ヲ枉ク上

盜ニ居テ下ノ盜ヲ刑セハ日ニ千頭ヲ刑スト雖<sup>レ</sup>臣賊竭クルコトナシ上  
枉ルニ居テ下ノ枉リヲ制スルトキハ月ニ萬口ヲ獄ニスト雖<sup>レ</sup>臣罪絶ヘ  
ルコトナシ

第七條 政ヲ正スルノ要ハ良哲ヲ尋索シテ之ヲ用ユルコトヲ得ルニ  
アリ仁德ナキモノハ諸好者ニ偏ス勇德ナキモノハ諸威者ニ悚ル義德

ナキモノハ諸賄者ニ迷ヒ智德ナキモノハ諸功者ニ眩<sup>ク</sup>サ<sup>ル</sup>四德アルモ  
ノハ是レ賢ナリ賢ハ得ルコト難シ一德ニ合ヘルモノヲ賢ニ代ヘヨ主

上賢ヲ好テ一德ヲ得ルモノハ則チ賢又タ來ル

第八條 刑ヲ行フハ政ノ重キナリ以テ輕クスルトキハ則チ先皇ノ道  
ヲ失ス天ノ降ル所ハ專ラ此ニアリ刑スルヤ不孝ヲ一トシ不弟ヲ二ト

シ不忠ヲ三トシ不義ヲ四トス孝弟廢タレ忠義亡スレハ賊乱滿ツ無道  
ノ君ハ賊乱ヲ惡ンテ乃チ刑ス不孝ヲ赦ルシテ之ヲ置ク及ヲ折ルト雖

臣治ルコトヲ得ス豈ニ本乱レテ其末ヘ治ルモノアラシヤ

第九條 國ヲ安スルノ本ハ五圖ノ多キコアリ其レ厥ノ歸キヤ米粟多  
キニアリ人世ハ衣ト食ト木ト財ト器トノ圖リコトヲ立ツ然レ<sup>レ</sup>臣食ス

ルニ粟少レハ田ヲ耕シ蠶<sup>シ</sup>ヲ養ヒ木ヲ伐リ金ヲ掘リ器ヲ造ル何ヲ以テ  
カ豊カコ之ヲ作ラン惡クソソ戸ニ足ランヤ米ノ直錢<sup>アライ</sup>ヨリ多キトキハ  
則チ五ツノ直ヒ之ニ隨テ多シ鮮キヲ以テ多キヲ買フトキハ則チ世其



ノ立ツ所ヲ失ス民爰ニ困シ國爰ニ危シ

第十條 米粟多クスルノ本ハ五事ノ非ナキニアル是レナリ君ニ蓄臣ナク民ニ遊族ナク國ニ荒剛ナク政ニ苛制ナク祭ニ倍修ナキナリ蓄臣ヲ要ユルトキハ則チ迴實ヲ促リ遊族ヲ置クトキハ則チ穀功ヲ費シ荒剛ヲ捐ルトキハ則チ田畠微クナシ苛制ヲ下ストキハ則チ道ヲ耕サズ倍修ヲ行フトキハ則チ風雨ヲ變ス焉ソ米粟多カラシヤ

第十一條 叛乱ノ本ハ國乏ク民貧キニアリ國ヲ乏シ民ヲ貧ヲスルコトハ財ヲ宮庫ニ秘シ米ヲ官藏ニ儲スルニアリ夫レ畜慾ノ國ニ住センヨリ寧口僞誇ノ國ニ住セン畜慾ノ世ハ貨上テ都宮ニ隱レ僞誇ノ世ハ貨下テ鄉扉ニ流ル富メル民ハ樂テ己カ躬子孫ヲ惜ム故ニ慎テ制命ヲ畏ル貧キ民ハ我ヲ恨ム尙惜ムニ足ラス焉ソ制命ヲ畏レンヤ

第十二條 主上政ヲ爲ムルハ仁ニ止テ我ナシ學テ天度地行人法ノ理ヲ以ス吾レ先皇ノ蹟ヲ踐ンテ臣ヲ先賢ノ蹟ニ導ク天ノ天下ヲ安シ天ノ兆庶ヲ樂メヨ天ノ自ラニ御シ無爲ニ歸シ虛莫ニ御シテ王道ヲ隆スルナリ

第十三條 宰職政ヲ奉スルハ義ニ止テ己ナシ學ハ禮樂ヲ以テ勤テ以テ奉行天皇ノ治御ニアラサレハ原ク所ナク國家ノ安全ニアラサレハ議ル所ナク道心ノ實腹ニアラサルコトナク忠事ノ實體ニアラサルナク慮ル所ハ宗廟ノ危キニ在テ我カ家ニアラス願ミル所黎民ノ苦ミニアリテ我カ身ニアラス公ケテ實ニシ私ヲ慮ニシテ其果ヲ案ウス

第十四條 王者ノ政ヲ爲ムルハ吾カ政ニアラス是レ天ノ政ナリ宰職ノ政ニ奉スルハ吾カ政ニアラス是レ帝ノ政ナリ吾レニアラサルヲ以テ吾レニアラストシテ敬ヲ致シ誠ヲ致ストキハ則チ己レナク罪ナシ吾レニアラサルヲ以テ吾レニアリトシテ恣ヲ作シ卒ヲ作ストキハ則チ上ノ一ノ恣降リテ下ノ千痛トナリ上ノ一ノ卒キ降リテ下ノ万困トナル災是レヨリ起ル



第十五條 造士ノ政ヲ蒙ルハ敬ニ止リ以テ高クスルコト勿レ學ヲスルニハ忠征ヲ以テセヨ忠ヤ仁ニシテ己レナク征ヤ義ニシテ貪リナシ叛逆ヲ以テ好ミナ同セス己レカ恨ミナ以テ敵ト戰ハス勅命ニ進退シテ忠義ニ生死セヨ

第十六條 兆庶ハ政ニ畏レ誠ニ止テ欺クコトナカレ農者ハ耕<sup>コウ</sup>培<sup>ハイ</sup>籽<sup>シ</sup>稼<sup>カ</sup>ノ休スルコトヲ知ラス工者ハ法ニ作り美コ存シテ厭フコトヲ知ラサレ商者ハ荷駄渡歩シテ倦ムコトヲ知ラサレ藝者ハ問習案鍊シテ投スルコトヲ知ラサレ慎ミヲ御<sup>オ</sup>令<sup>レ</sup>ニ盡シテ勤メテ命用ニ盡セ

第十七條 政ハ學ニアラサレハ立ス學ノ本ハ儒ト釋ト神トナリ然ルニ其一ヲ好ムモノハ各其二ヲ惡ンテ而テ其存スルコトヲ嫉ミ其亡ヒンコトヲ欲ス我カ知レルヲ理トシ知ラサルヲ非トスル所以ナリ故ニ政者ハ宜ク三ニ通シテ一ヲ好マサルヘシ恐クハ其一ヲ好ムコトヲナサハ政ヲ枉ケン則チ王道廢レテ騷動發ル

### 儒士憲法

第一條 儒ハ五常ノ宗ニシテ五倫ノ源ナリ五常ハ身ヲ修メ倫ヲ理ム五倫ハ身ヲ立テ世ヲ建ツ人トシテ之ヲ學ハサルトキハ則チ禽獸ノ消息ニ落ツ永ク君子ノ威儀ヲ失ス其ノ學フ所人和ヲ先ニスヘシ

第二條 儒ノ宗タル理ヲ天極ニ取リ法ヲ天度ニ尋ク是レ古聖ノ學ヲ河洛ニ立テ天ヲ察シ神ニ通シテ人ヲ天地ニ曉スヘシ是ヲ以テ人倫和シ日用應ス或ハ天ヲ捨テ、唯日用ト云ヒ神ヲ捨テ、純ラ人常ト云フ學アリテ治ナシ近キニ似テ即チ遠キナリ

第三條 儒ノ學ヲ爲ムルヤ禮樂ニアリ禮ハ人ノ儀ヲ道<sup>ミチ</sup>ノ樂ハ人ノ和ヲ調フ禮ヲ學ンテ天ノ節文ニ諧ヒ樂ヲ學ンテ天ノ速度ニ諧フ我ヲ節スレハ禮ナリ是ノ儀天ニアレハ即チ我ニアリ我ヲ和スルハ樂ナリ是ノ調天ニアレハ即チ我ニアリ禮樂天我皆ナ教ヘ惟レ一ナリ一ニ至ルトキハ則チ道ナリ是人倫ノ常ナリ常ヲナシテ常ヲ訓フルノミ纒カニ



操ルトキハ則チ禮ニアラス何ソ道アラソ

第四條 儒ハ是レ博識強記是ノ要ハ致知格物其ノ要ハ夫子ノ一貫ニシテ之ヲ得レハ則チ道ナリ其體ハ明德其位ハ中庸其跡ハ忠恕ナリ曾子ノ忠恕ト謂フハ空ノ謂ニアラス王者ハ堯舜禹ヲ師トシ周孔孟ヲ師トセヨ學フ所ハ德ニアリ故ニ無德ノ賓ハ師トスルニ足ラス

第五條 學問ハ是レ習曉ノミ學ハ先聖ノ跡ヲ習ヒ問ハ先聖ノ理ヲ曉トス文之ニ乘ス或ハ跡ヲ捐テ文ヲ取テ之ヲ用ルヲ學ト謂フ跡ナキノ理ハ空理ニシテ理ナキノ文ハ空文ナリ豈ニ用テ孔道トセンヤ故ニ人ノ先ニアリテ人從ハス或ハ從ヘテ利アルコト無シ

第六條 儒ノ山タルヤ身ヲ修ムルノミ上古ハ易曆盾甲アリテ修メ中古ハ本艸内經アリテ修メ下古ハ詩書禮樂アリテ修ム道德無ニシテ三墳ニ度ル頃ハ儒ハ三皇ヲ捐テ三子ヲ執ル此間タ偏我アリ仁者ノ眉ヲ密ル所ト智者ノ唾ヲ吐ク所ハ千歲詩書禮樂ヲ弄遠シテ理ヲ後儒佞子

ニ取リ周孔ヨリモ崇メテ道ノ廢スルコトヲ制セス

第七條 儒ヲ學フモノハ異國ヲ貴ンテ異ノ先王ニ歸ス故ニ吾ハ國ヲ卑シメ吾カ先皇ヲ放チ是レ唯異法ヲ知テ吾ヲ知ラサルニ依テナリ異王吾レニ離セハ必彼レニ詢黨セン故ニ學ヲ爲サハ先ツ吾カ儒ヲ學ヒ吾カ先皇ヲ知ラ何ソ誤テ自ラヲ棄テ他ヲ憑ンヤ

第八條 大學ヲ講ズルコトハ主上ニアラサレハ天下ヲ唱ルナカレ宰職ニアラサレハ治國ヲ説カサレ恐クハ庶民ヲシテ州邦ヲ望マシメ造士ヲシテ天下ヲ望マシメ齊元ヲ破リ寶祚ヲ危セシコトヲ吾カ國法ハ無欲無邪其ノ望ヲ促スノ誨ニ悉ク停止セヨ

第九條 儒生ハ湯武ヲ以テ聖トシ師トス異國ハ理ヲ尊フ故ニ咎ナシ吾國ニ臨ンテハ齊元ノ罪人ナリ齊元ハ法ヲ尊ヒ之ノ若キノ理ヲ立ス以テ寶祚ヲ危シ天ノ亡ルニ當ルナリ

第十條 異端ヲ擊ツコト孔子ニ於テ言アリ孟子ニ於テ名アリ是レ聖



道ニ於テ害アレハナリ楊墨荀告其人ナリ未タ曾テ黃老西方ニ及ハス  
今ノ凡儒恣逸ニシテ必黃老佛神ニ及フ孟子足ラサルコトナシ外カ真  
至佛神ヲ擊ツ即チ聖ヲ破リ政ヲ破ル厥ノ辜叛逆ヨリモ甚タシ

第十一條 孔子ハ怪力亂神ヲ語ラス其ノ欲スル所ハ常道治倫ニアリ  
故ニ語ラスト是レ異儒ナルノミ吾カ國ハ彼方ニ同カラス怪ハ神ノ功  
用ナレハ説サルトキハ則チ神徳ヲ無ミス神ハ吾カ國ノ徳體ニシテ説  
カサルトキハ則チ齊元ヲ無ミス強テ其句ニ依テハ吾カ國ノ罪人ナリ  
第十二條 在マシカ如クセヨト謂フハ爰ニ亡キヲ以テ爰ニ在リトス  
ルノ句ナリ是幽理冥靈ノ紫ニ歸シ黃ニ歸スルヲ祭ルノ國方ナリ吾カ  
國ハ天降ノ神地生ノ祇開闢ヨリ來<sup>コカ</sup>タ鎮坐ス幼兒ト雖<sup>カ</sup>知ラサルコトナ  
シ頻リニ説キ施セハ恐クハ鎮坐ヲ疑ハンカ齊元ノ國ニ於テ講説スル  
コト勿レ

第十三條 古儒ノ知タルヤ天ニ帝神アリテ變アリ地ニ后祇アリテ化  
アリ人ニ魂靈アリテ怪アリ皆天有ナリ聖人ハ天有ヲ立テ人常ヲ治ム  
故ニ泰平ヲ致シテ宗源ニ差ハス頃ノ儒ハ神奇佛妙ヲ指虛ス有ルカ  
如キヲ有トナスルハ則チ法立テ人伏メ有ヲ劫メテ無トナスルハ則チ  
法廢シ人逸ズ故ニ皇制ヲ弱メ神力ヲ抜ク政ヲ知ラス只己ヲ立ルナリ  
第十四條 學ヲ爲ムルモノハ須ラク先儒ヲ學ンテ後儒ニ依ラサレ先  
儒ハ鬼トナルヲ見テ黃泉ヲ知ル古史今紀ノ載スル所ナリ故ニ人伏シ  
テ逸セズ吾カ神ニ背カス然ルニ後儒ハ鬼ハ空ニ歸シ泉ハ元水ナリト  
會シテ大ニ鬼魂ヲ撥ス嗟唯古史上説ヲ破スルノミニアラス天有ノ大  
理ヲ破リ人世ノ極事ヲ破リ神ノ實ヲ破リ政ノ一ヲ破ル是レ傍ヲ排シ  
テ政ヲ願ミサルナリ

第十五條 後儒ハ神ハ氣ノ變靈ニアリト謂フ政ニ常躬鎮坐ヲ云フコ  
トヲ罔<sup>ナ</sup>ズ又謂ク魂ハ陰陽ノ精ナルノミ故ニ死魂散滅ト議思ス是レ人  
間ノ理量ニシテ神仙ノ見知ニアラス鎮坐ヲ罔<sup>ナ</sup>ミスルトキハ則チ三輪



五瀬立ル所ヲ知ラス魂散滅スルトキハ則チ菟狹芳野云ニ何ソ立タン  
 然レハ即チ神ニ誓ヒ祇ニ服スルモ並ニ立タス政其堅キヲ失セシ  
 第十六條 孔子西方ノ聖人ヲ稱シ老子ヲ龍ト美ムルナリ然ルニ儒ヲ  
 學ンテ非ルヲ以テ勢トナス或ハ寓言ト謂フ孔子ハ聖人列子ハ真徒何  
 ソ變婉シテ詐ル所ソ老子ハ古儒沖莫ノ聖ナリ無爲ニシテ道體ヲ説ク  
 釋佛ハ天服シ神伏スルノ尊ナリ人間ノ測カルニ下ラス誹ルハ是レ諍  
 ヒノ本ニシテ諍ヘハ即チ嘯キノ根ナリ  
 第十七條 神學ハ堅ニ三部アリテ三元ヲ總ヘ横ニ五鎮アリテ六合ヲ  
 攝ス汝カ始メヲ明ニシ汝カ今ヲ治ム佛學ハ堅ニ三學アリテ五乘ヲ導  
 キ横ニ三諦アリテ万法ヲ束テ汝カ終リヲ教ヘ汝カ今ニ應ス儒學ハ堅  
 ニ五倫アリテ人世ヲ立テ横ニ五常アリテ人道ヲ修メ神佛ノ始終ニ背  
 カス共ニ理ノ絶極ニシテ挑ミ絶ツヘキモノニアラス

### 神職憲法

第一條 神道ハ三才ノ本ニシテ万法ノ根ナリ宗源ハ天地ヲ成シ齊元  
 ハ日祚ヲ立テ靈宗ハ心性ヲ明ス三部ハ道ヲ一ニシテ施ヲ異ニス之ヲ  
 以テ體トシ大社ハ天下ヲ衛リ國社ハ國家ヲ護リ縣社ハ群民ヲ守ル三  
 社風雨ヲ領シ禍福ヲ掌ル之ヲ以テ用トナス體用共治ヲ一ニシテ吾カ  
 國ノ基トス祭ルニ禮ヲ以テシ祈ルニ理ヲ以テシ事ルニ信ヲ以テスル  
 トキハ則チ神我一ニ和シテ道茲ニアリ  
 第二條 神ハ正直ヲ以テ體トシ靈驗ヲ以テ用トナス天ヲ御メ地ヲ鎮  
 ム故ニ神職ナルモノハ己レカ正真直善ノ性ヲ認得シテ敢テ放逸セス  
 神ノ妙怪靈驗ノ徳ヲ信崇シテ更ニ馴レ慢ラス神我ノ一ニ住シテ事ヘ  
 奉リ拜シ陪ヘレ  
 第三條 奉幣ノ法ハ慎敬ニ止テ日心ヲ神極ニ安シ重手ニ玉串ヲ取リ  
 以テ斜メニ心ニ中ツ左足ハ陽天ヲ踐ミ右足ハ陰天ヲ踐ム廣前ヲ渡リ  
 靜々然嚴々如トシテ而テ内門ニ陪ヘリ敬テ自己神ノ靈躬ニ踞踞セヨ



寶幣ハ神ノ表誠ニシテ祝言ハ神ノ身理ナリ正殿ハ天ノ德宮ニシテ神明ハ天ノ法生ナリ五法正ヲ一ニシテ之ニ奉スルニ禮ヲ以テセヨ

第四條 神ニ事ルノ道ハ誠信ニ止テ神境ヲ測ラサレ之ヲ測ルヤ聖人モ尙ヲ能セス况ヤ凡夫ヲヤ故ニ愚ノ如クニシテ誠信ニ止マルヘシ安リコ測ラハ神意ニ稱ハス

第五條 社行ノ法ハ恭敬ニ止レ神ハ是レ眞明ノ境ナリ之ニ由テ社事百箇皆ナ靈事ナリ等閑ノ仕方焉ソ之ヲ能セン故ニ崇尊ヲ致シ敬恭ヲ格セ

第六條 齊ノ方制ハ五齋ヲ調フニアリ所謂五齋トハ火食行水則是レナリ火ハ生死血獸ニ同フセス食ハ毛畜臭菜ヲ食ハス行ハ婬血産尸ニ觸レス水ハ殿行連齊流沐ス則ハ重修祓除祝言ナリ職スルモノハ常ニ行ヒ詣スルモノハ限テ行フ忽ニスルトキハ則チ神ヲ誑シ身ヲ亡ス

第七條 祭供ノ由ル所常ハ神恩ヲ謝シ別ハ災禍ヲ祓ク故ニ恪惜ノ供

ヲ以テセス法ノ如クニシテ儉約ヲ加ヘサレ餘ハ普ク配シテ蕪ヲ別タサレ具ハ河流ニ於テ之ヲ行ヘ喜悅輒和ヲ以テ嗔恨荒威セサレ是レ神ヲ祭ルナリ

第八條 神ノ事ヲ説クコト文ノ如クニセヨ事ヲ演ルニ義ヲ以テ解カサレ神代正直ノ時ハ史ヲ造ルニ義ヲ含ミ文ヲ爲ラス後世異典ニ効テ以テ義解ヲ發シテ理會ス神文ヲシテ異文ト成シテ寓說ノ造言ヲ免レサラシム

第九條 神ノ行コハ信ヲ先ニシ理ヲ次ニシ理ヤ賢ニアラサレハ徹セス聖ニアラサレハ盡サス徹セサルトキハ則チ差知ス盡サルトキハ則チ邪語還テ神ヲ無ミシテ乍チ咎ニ當ル堅信堅宗シテ實ニ依テ理ヲ明ラメハ達セスト雖凡過チナシ

第十條 本跡緣起ノ齊ハ社祠ニ依テ異ナリ陰屋出郷ハ限リヲ屈テ還リ入ラサレ自詣他詣ハ理ヲ用テ赦シ納レサレ忌齋嚴祕ヲ以テ神鎮マ



リ社立ツ職者ハ倦ミ泥テ忽ニナストキハ則チ神去リ社廢ル

第十一條 大社ハ勅使ヲ以テ國社ハ國司ニ命シ縣社ハ國造ニ命ス  
託姫ヲ貞カニシヨリ官則ニ應シテ毎年神ヲ降シテ神ノ望ヲ聞ケ望ニ  
應シテ鎮坐ヲ尋ケ或ハ怠リ休ムトキハ則チ神ノ睡リ久クシテ利無シ  
尙ヲ久スルトキハ則チ天ニ歸テ吾カ國ヲ鎮ラス齊元ノ國神天ニ歸ル  
トキハ則チ寶祚安カラス國威隆ヘス異國來リ侵スコトヲ危フナリ

第十二條 宗廟ハ大連之ニ事フ大社ハ大德小德大仁小仁國社ハ大仁  
小仁大義小義大神小祠階ナキノ神官ハ之ニ事ラサレ階ナクシテ之ニ  
事ヘハ是レ神ヲ輕ンス國ノ災必起テ社稷穩カナラス

第十三條 神明ハ己レ無キ天ノ君子ナリ神職當ニ之ニ則ルヘシ然ル  
ニ神官動スレハ佛典ノ興起ヲ嫉ミ儒文ノ弘行ヲ排ス佛ハ大覺ヲ勸メ  
儒ハ人倫ヲ治ム汝カ宗源ヲ妨ケス又々齊元ヲ遮ラス自ラ時アリテ來  
ル得テ防護スヘカラス竝ロ他ノ隆ルヲ妬ソヨリハ己ヲ興シテ隆ニセ

ヨ興ルコトハ勤修コアリ隆ルコトハ學習ニアリ排スル時ハ則チ共ニ  
廢シ學フトキハ則チ共ニ立ツ

第十四條 吾カ國ハ天尊齊元ノ國ナリ神代尙ヲ未タ人魂ヲ祭テ神明  
ニ混セス人代之ニ隨ヘ皇王臣連先人ヲ崇ムト雖凡神號ヲ以テセサレ  
陵廟ヲ奠ツルト雖凡祭禘ヲ以テセサレ之ニ依テ芳野菟狹ノ如ニセヨ  
己現ノ靈神ニアラサレハ社祠ヲ造リ祭祀ヲ致スコト勿レ

第十五條 天皇神明ヲ崇メテ神戶ヲ置キ祭田ヲ置ク然ルニ神田ヲ歛  
メテ神拜セス以テ朝セス神事セスシテ專ラ食シ專ラ費ス名テ盜巫ト  
ナス神ニ事ルコトヲ停メヨ

第十六條 神明數々釋法ヲ社祠ニ修スルコトヲ請フ其ノ災ヲ除キ威  
ヲ増スカ爲メナルニ於テハ宜シク神請ニ隨フヘシ釋氏ノ自意ヲ以テ  
修メ神祇ヲシテ成佛セシメ淨土ニ送ル等ノ法ニ於テハ永ク制停ス僧  
ヲシテ修ヲ得セシムル莫レ



第十七條 佛典ハ西説ノ神道儒文ハ番説ノ神道ナルハ太神ノ託宣ナリ神代ノ上事知<sub>レ</sub>ヨヘシ共ニ物ヲ委シ斷リヲ精クシテ神史ノ立幽ヲ述フ兼學セサルヘカラス

釋氏憲法

第一條 道ヲ求メ倫ヲ辭シテ和合衆トナリ無鬪場ニ住ス是レ僧道ナリ無欲ナルカ故ニ自ラ和合ス無我ナルカ故ニ自ラ鬪フコトナシ是ヲ以テ三寶ニ入テ能ク國施ヲ受ク然ルニ欲怒ヲ生シ己我ヲ發シ和徳ヲ失シ鬪諍ヲナスモノハ廢倫ノ盜タリ人中ニ置テ人食ヲ與ヘサレ廢道ノ賊トナリ佛中ニ置テ佛食ヲ施サレ

第二條 釋典ハ三國ノ通宗ニシテ百機ノ歸極ナリ賢ナルモノハ賢ニシテ覺道ヲ宗トシ憲ナルモノハ愚ニシテ因果ヲ畏ル説カスシテ政道ヲ導キ治メスシテ万機ヲ正ス故ニ諸國ノ諸王之ヲ敬フ其與廢ハ僧道ニアリ僧ナルモノ道ヲ廢スルトキハ則チ佛法理ヲ失シ跡ヲ失ス僧モ

亦自ラ亡フ

第三條 戒ハ諸佛立極ノ大門ナリ故ニ法身ノ遮那華藏ニ先ツ説ク應化ノ釋迦鹿野ニ先ツ説ク是ヲ以テ衆僧戒ヲ受ケ僧ニ入ル戒ヲ破レハ僧ヲ出ツ戒ニアルハ是レ僧ナリ戒ヲ退ケハ僧ニアラス心ハ戒ニ理マ<sub>リ</sub>徳ハ戒ニ依テ成ス無戒破戒ノ沙門未タ自ラヲ化セス何ソ人ヲ教ヘンヤ是レ國ヲ費スノ遊民王者ノ放徒ナリ

第四條 戒定慧ハ佛典ノ大綱ナリ機ニ隨テ宗趣千万科ナリ大綱ヲ離ルトキハ則チ立ル所ナシ無戒ノ定ハ是レ邪定ナリ無定ノ慧ハ是レ乱慧ナリ三學立チ正クシテ佛門立ツ三學壞スレハ乃チ佛門倒ル

第五條 講ヲナスモノハ當ニ四恩ヲ講シテ父母ヲ崇カメ王者敬ヲシ倫衆ヲ勤メ三寶ニ皈セシメ五善ヲ講シテ其善ヲ尽シテ以テ其惡ヲ絶タシメ五心ヲ講シテ性理ヲ曉トシ圓成ニ住セシムルノ誨ヘヲナスヘシ是レ聖者化ヲ布クノ方ナリ或ハ己執ヲナシテ講セハ諸佛通化ノ大



通ノ誨ヘニ非ストナス恐クハ佛道厄ヤク窄小徑ト作サン檀越ヲシテ不義ノ罪人ト作ス誨石須ク之ヲ恐ルヘシ

第六條 僧僧ハ元戒ニ依テ立ス未タ姓ニ依リ才ニ依ラズ比丘ハ上座沙彌ハ下座走レ古佛ノ法節ナリ或ハ朝龍ヲ憑ヒ或ハ識記ヲ憑ヒ高ク位ノ座ヲ山クテ應對セハ諸レ那ン佛徒ナラン即チ俗徒ナルノミ

第七條 僧ハ住持ノ三寶ニ事ヘテ心倦マス身墮セス晝夜勤メ時ヲ移サ、レ民庶ニ於テハ農ヲ勤メテ僧ヲ與フ僧之ヲ勤メサレハ其罪カ遯ル所ナシ僧ナルモノ罪ヲ怖レサレハ檀越ノ罪遮キル所ナシ

第八條 僧トナリテハ深ク古佛ノ所在ヲ尋見セヨ或ハ理解シテ他コ古佛ナシ自性はナリト謂ヒ又々佛ハ是レ理ノ名其人ナシト謂フ若シ成佛ノ人ナクンハ汝悟テ何ノ佛トカ成ラン又佛ニ感應アルト云フハ諸レ理ノミニシテ何ノ感應チカ作サント謂フ是レ因果撥無ノ見ノミ須ク住信ニレテ諸佛ノ境界ヲ見ルヘシ

第九條 一佛ニ歸シ一法ニ依リ悉地ヲ成スルハ是レ佛典ノ一儀ナリ是レヲ一行三昧ト名ク乃チ虛妄ニアラス又大道ニアラス釋學ニ於テ道トセス王道ニ於テ利アラス諸惡莫作衆善奉行自ラ其意ヲ淨ス道ノ教ヘ大道ナリ大道ハ當ニ普ク訓ニヘシ一行ハ好ク別ニ訓ヘヨ

第十條 佛典ハ冥府ノ爲體ナリヲ明シ惡業ノ報山ヲ明ス不義ナルモノ教化ヲ絶スト雖モ能ク知ルトキハ則チ惡事ヲ離ル又佛界ノ妙境ヲ明シ善因ノ慶果ヲ明ス無智ナルモノハ學習ヲ斷ツト雖モ能ク聞クトキハ則チ願テ善ヲ行ス僧此ノ極ヲ知テ教示ヲ下セヨ

第十一條 大藏ニ雨ヲ請ヒ晴レテ請ヒ敵ヲ伏シ亂ヲ治ル修法アリ賢僧之ヲ修スルトキハ則チ驗ヲナス世々以テ證アリ是レ佛典ハ天服シ神飯シ龍伏シ鬼降ルノ靈證アリ或ハ其證ナキモノハ何ヲ以テカ幽地ヲ説クノ實ヲ見ハサン功驗ノ有無ハ僧者ノ徳ニ在リ

第十二條 小乘ハ神天ヲ卑シメ沙彌ヨリモ輕ノス大乘ハ高地ヲ知テ



貴テ菩薩トナス吾カ國ハ神國ナリ佛ノ本神アリ佛ノ跡神アリ小乘ハ國理スルコト能ハス唯大乘ヲ學テ專ラ神明ヲ貴ヘヨ

第十三條 大乘ニ勝方便アリ念佛密呪ハ罪ヲ消シ大乘妙經ハ樂ヲ與フノ説ヲ敷ク疎ク聞ケハ罪ヲ加ルニ似タリ實ニ知テ頗ル罪ヲ離ル念願ノ因縁盡引シテ遂ニ惡ヲ改メ善ヲ行スルニ入ル義智道絶ノ愚人ハ焉レニアラサレハ善ニ入り難シ講者妄リニ説カハ佛意ヲ破ラン

第十四條 震旦ノ大德梵經ヲ釋シテ甚ダ理解シテ正體ヲ失ヘハ還テ妄リニ寓言トナル佛ハ聖中ノ聖何ソ一言ノ虛誕ヲ説カン又神中ノ神事ニ詰リテ造リ語ヲ成スコトナシ佛説ハ眞實ノ眞事ノ事ニ如カサルヲ説クコトナシ頻リニ理解スルトキハ則チ妄ニ落ツ

第十五條 外道ハ地獄佛土ノ説ヲ議シ之ヲ方便ト説ト謂フ復タ方便ノ名目ヲ議シテ無ヲ謀テ有ト作スノ目ト謂フ又僧者アリ同ク見ル汝何ソ梵學ニ疎キヤ其方便ノ名目ハ小ヨリ大ニ之ク佛其ノ階名ヲ標ス

無キヲ作り有リトモハ是レ諸ノ偽詐ソ即チ人ヲ欺クニアラヌヤ或ハ偽欺ヲ造テ説カハ天仙神鬼何ソ聖主世尊ノ説ヲ尊崇センヤ

第十六條 震旦ニ宗アリ有ルモノハ必ス至ル自他並ヒ立テ以テ諍ヒ無キコトナシ宗ノ諍ヒハ獅子身中ノ虫ナリ己ヲ食ヒ己ヲ斷ツ亦兩虎ノ諍ヒニ似タリ傍ヲノ狐食フコトヲ成ス亦檀越ヲシテ鬪ハシムルニ至ル國亂是ヨリ起ル佛道ヲ破リ王政ヲ破ル宜ク無我ニ入テ諍ヒノ本ヲ斷スヘシ

第十七條 佛ハ伏羲老孔ヲ記シ老孔竺乾西方ヲ道フ儒其レ焉ソ佛理ニアラサラン佛ハ日月星ヲ説ク神ハ皇天ニ代テ訓教ヲ宣フ佛又是レ神道ナリ佛ノ五心ハ神ノ五心儒ノ五常ハ佛ノ五大神ノ五行ハ儒ノ五行ナリ佛神儒ハ本一道アリ故ニ嫌ハスシテ兼テ學ヘヨ兼學フトキハ則チ理ヲ盡ス

### 五憲法終



# 冠導成唯識論述記

本書ハ諸宗學林ノ教科書ナルカ誤字ノ多キヲ以テ管ダニ學生ヲシテ其研究ヲ遲緩セシムルノミナラズ亦々教員ヲシテ不便ニ堪ヘサラ使メタリ故ニ今般各宗大家ト計リ豫約出版致候有望ノ士速ニ加入被下度  
尙豫約方法見本等ハ不日廣告可仕候

## 佛 大家講義錄

右ハ去る廿三年十月廿二日發行の明教新誌に佛教學院廣告せし如く彌々本月廿五日を以て第一號を發刊す○題字鳥尾得安居士○受戒戒問釋雲照○十不二門指要鈔櫻木谷慈齋○三學辨原坦山○八轉聲南條文雄○七十五法解竹園行潛○維摩經土岐善靜○唯識百法北條祐賢等の講義を掲載す○但し五厘切手七枚を投せハ第一號を限り進呈す

## 發行所

東京芝區愛宕町一丁目二十番地

改 獨 尊 教 會

明治廿四年二月十五日出版

正價金五錢

版權所有

譯者兼 發行人 芝區三田小山町廿番地寄留 大瀧 宗淵

印刷人 京橋區築地二丁目十六番地 高木 麟太郎

發行所 芝區愛宕町一丁目二十番地 獨尊 教會

印刷所 京橋區築地二丁目十七番地 東京築地活版製造所

東京麻布赤根羽

森 江 佐 七

東京神田表神保町 東 堂

羽後國酒田町 須田 傳二 郎

## 大賣捌



# 冠導成唯識論述記

本書ハ諸宗學林ノ教科書ナルカ誤字ノ多キヲ以テ管ダニ學生ヲシテ其研究ヲ遲緩セシムルノミナラズ亦タ教員ヲシテ不便ニ堪ヘサラ使メタリ故ニ今般各宗大家ト計リ豫約出版致候有望ノ士速ニ加入被下度

尙豫約方法見本等ハ不日廣告可仕候

## 佛 教 大家講義錄

右ハ去る廿三年十月廿二日發行の明教新誌に佛教學院廣告せし如く彌々本月廿五日を以て第一號を發刊す○題字鳥尾得安居士○受戒戒問釋雲照○十不二門指要鈔櫻木谷慈薰○三學辨原坦山○八轉聲南條文雄○七十五法解竹園行潛○維摩經土岐善靜○唯識百法北條祐賢等の講義を掲載す○但し五厘切手七枚を投せば第一號を限り進呈す

## 發行所

東京芝區愛宕町一丁目二十番地

改 獨 尊 教 會

明治廿四年三月十五日出版

正價金五錢

版權所有

譯者兼 發行人 芝區三田小山町廿番地寄留 大 瀧 宗 淵

印刷人 京橋區築地三丁目十六番地 高 木 麟 太 郎

發行所 芝區愛宕町一丁目二十番地 獨 尊 教 會

印刷所 京橋區築地三丁目十七番地 東京築地活版製造所

東京麻布赤根羽

森 江 佐 七

東京神田表神保町

東 京 堂

羽後國酒田町

須 田 傳 二 郎

## 大 賣 捌

敬 告



迂顯高禪師題辭○西有穆山禪師題辭  
古知知常師序文○大學林教師折居師校閱

●曹洞宗大學林御藏書

○故而山正法眼藏聞解○全部上下二冊洋裝半紙版大凡一千  
○老師著○入極上美本○正價金二圓五拾錢來ル  
○三月限リ二回豫約金一圓七拾錢○郵  
○稅一冊拾錢

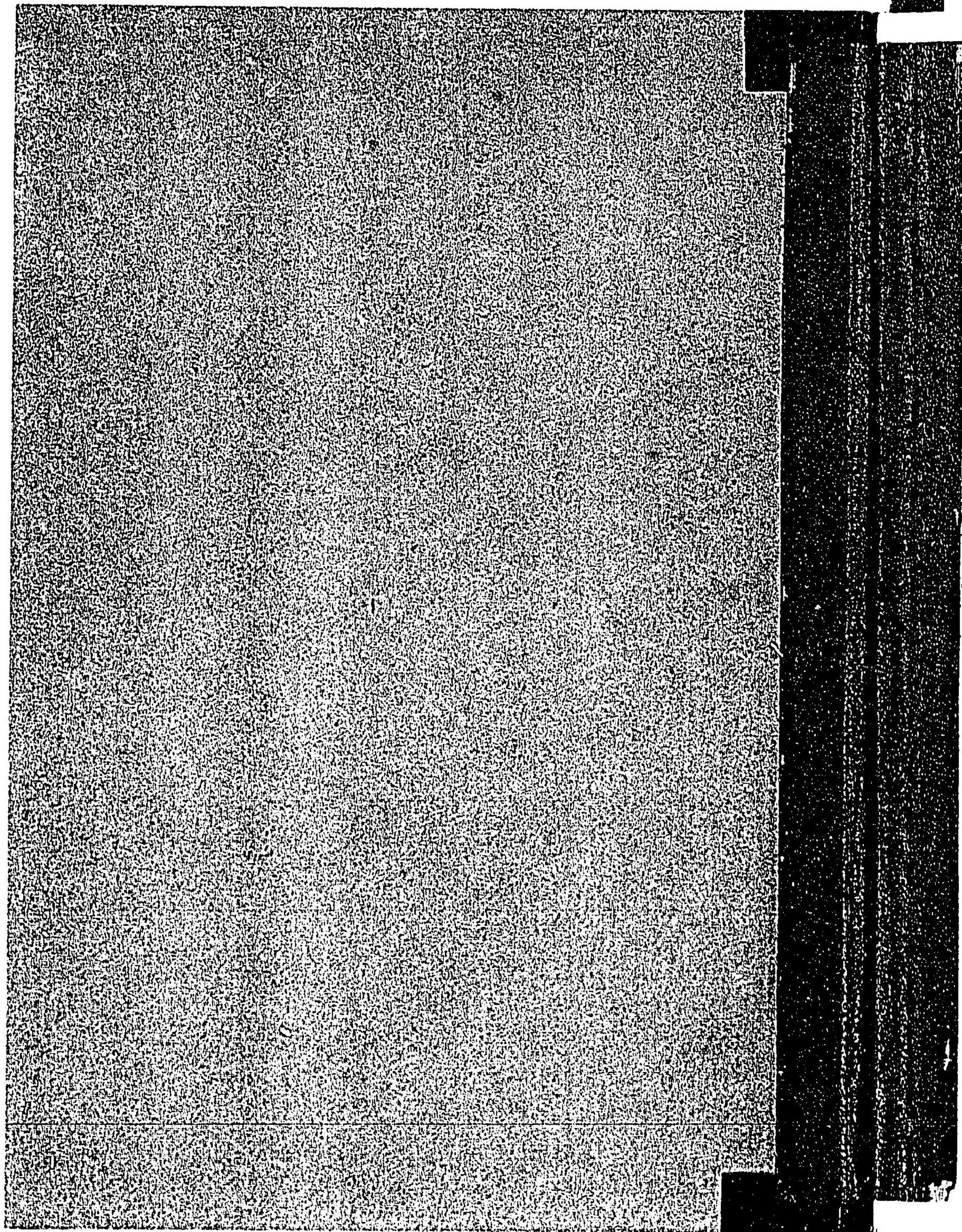
右書ノ原本正法眼藏ハ曹洞宗高祖承陽大師ノ大著ニシテ高祖ノ眼藏ト言ヘハ誰レ人モ  
格外越超ノ妙述ナルヲ大抵知ラサルモノナシ而シテ此書大卷ニシテ之ヲ通讀スルスラ  
學侶諸君ノ難シトスル所ナリ然ルニ其宗大學林、學科改正シ全部ヲ講本ニ編入シ且ツ  
洞上在家化道ノ修證儀ニ至ル迄都テ正法眼藏ニ基クト嗚呼學侶諸君ヲシテ益々困難ヲ  
感セシムルニ至ル也幸アルカナ茲ニ故面山老師ノ著述正法眼藏聞解ト題スル（此書寫  
本ニシテ完寫シタルモノ國中唯々二部アルノミ）書アリ此書面師ノ卷舒如意ノ妙技ヲ以  
テ斯ル大卷ノ真味ヲ端的ニ描寫シ普ク學徒ノ難解ヲ救ハント務メタリ而シテ此書獨リ  
洞上門下ノ必要ナルノミナラス苟モ佛教ニ志ヲ置クノ士ハ座右欠ク可ラサル要書ナリ  
故ニ今般特別有志ト計リ出版配布スルニ五百名ノ豫約者ヲ募リ本年十一月ニハ完成ヲ  
奏セント欲ス冀クハ有望ノ諸君速ニ豫約加入アラシメテ

豫約申込所

東京芝區三田  
小山町廿番地

眼藏聞解豫約出版所







49  
2



五憲法和譯

国立国会図書館

030689-000-5

特49-712

五憲法和訳

大滝 宗淵/訳

M24

BBB-0114





